

平成30年度

事業計画書および収支予算書

平成30年4月1日から
平成31年3月31日まで

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟

平成30年度事業計画

日本で生まれたソフトテニスを世界に誇れる、格調高いスポーツとして普及振興するため、当連盟の総力を挙げ真剣に取り組む。そのため、「ソフトテニスの普及振興を図り、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする」当連盟の目的をより明確にして「ソフトテニスの普及振興事業」「ソフトテニスの競技力向上事業」「ソフトテニスの国際振興事業」を3つの柱に位置づけ推進する。

特に、ソフトテニスを通じて環境保全と共に自己責任やフェアプレイの精神を身につけ、マナーを重んじる等の教育を推進し青少年の健全育成を図るとともに、暴力行為等の根絶を徹底する。

また、2020年東京オリンピック開催を踏まえ社会やスポーツ環境の変化に対応し、2020年に向けたソフトテニスのアピールと振興策を積極的に展開し、ソフトテニスの素晴らしさを広く知らしめ、ソフトテニス愛好者の増加を図ることとする。

2018年度は「ソフトテニス長期基本計画2017」の2年目となる。計画の実現に向けてそれぞれの事業を着実に推進していく。

I. ソフトテニスの普及振興事業

1. ソフトテニス競技規則の制定

(1) ソフトテニス競技(ダブルス・シングルス)を実施するために必要な競技規則を定めることを目的として、ソフトテニスの振興と競技性の向上等、より安全に楽しく競技できるよう必要に応じた検討を行い改訂し、ソフトテニスハンドブック(競技規則・審判規則・大会運営規則)やジュニア審判マニュアルに反映を図る。

① 競技規則の改訂

国際ソフトテニス連盟やアジアソフトテニス連盟と連携し、世界各国に設置されているテニスコートに合わせた施設基準への改訂を検討する。

(2) 日本で発祥した競技であることから、国際ソフトテニス連盟(以下ISTF)やアジアソフトテニス連盟(以下ASTF)における中心的なリーダー国として国際競技規則との整合性を図ると共に、英語版審判技術マニュアル(DVD)等を活用して国際普及の推進を図る。

2. 全日本ソフトテニス選手権大会等開催

(1) 国内競技会を大会実施要項に基づき実施する。

① 平成30年度大会日程及び会場(別表12ページ)

② 大会要項の改訂

ア. 国民体育大会の種別参加チーム数のローテーションを実施する。

イ. 全日本シングルス選手権大会の参加数改訂

ウ. 全日本社会人選手権大会及び全日本シニア選手権大会の種別の変更

(2) 大会の検討と大会運営の改善

① アジア競技大会日本代表予選会の実施

シングルス種別にて実施する。

② 全日本シングルス選手権大会

参加資格として前年度全日本選手権大会ベスト8を追加して実施する。

- ③全日本社会人選手権大会及び全日本シニア選手権大会の種別の変更
- ア. 全日本シニア選手権大会のダブルス男子・女子(45歳以上)を全日本社会人選手権大会に移行する。全日本社会人選手権大会は「ダブルス一般男子・一般女子」「ダブルス35歳以上男子・35歳以上女子」「ダブルス45歳以上男子・45歳以上女子」の6種別で実施する。
 - イ. 全日本シニア選手権大会の混合45歳以上の種別は実施しない。
- ④新規全日本大会の検討
- 全日本団体選手権大会及び全日本混合ダブルス選手権大会を実施する方向で検討する。
- ⑤日本スポーツマスターズの充実
- ア. 日本スポーツマスターズの全都道府県の参加を目指し大会の充実を図る。
 - イ. 2日間開催を継続実施する。
- ⑥大会参加申込のシステム化
- 主催大会の参加申込システム活用により、参加資格のチェック等による事務負担軽減と参加申込の効率化を図る。併せて支部大会申込のシステム活用を推進し、支部の事務負担軽減と効率化を図る。
- ⑦主催大会開催
- 主催大会を主管し、実質的に運営している開催地の運営状況等を的確に把握し、主要事業である大会が円滑に運営されるようにする。
- ⑧競技、審判、広報等大会運営マニュアルの活用
- 大会運営マニュアルの活用を促進し、円滑な大会運営と日本連盟と主管支部の大会開催にあたっての役割分担の明確化を図る。
- ⑨ゼッケンの着用
- 日本連盟主催大会において、統一ゼッケン(3段)の着用を継続実施し、四隅で留めることを徹底する。
- ⑩簡易得点板の設置
- 日本連盟主催大会において簡易得点板の利用を継続実施する。
- ⑪大会審判のワッペン着用の義務化
- 大会時に審判を行う際にワッペンを左胸に着用し、審判員の意識向上を図る。
- ⑫ユニフォーム等の着用基準
- わかりやすい説明と運用に努める。
- ⑬個人戦の組み合わせの事前公開
- これまで当日公開であった個人戦の組み合わせについて、事前公開を実施する。対象大会は、天皇賜杯皇后賜杯全日本選手権大会、全日本社会人選手権大会、全日本シングルス選手権大会とする。
- ⑭ペアのユニフォーム統一
- ダブルス時のペアのユニフォームを統一し、かつ対戦相手と異なるカラーを着用するよう検討する。
- ⑮試合経過の配信
- 競技性向上と広報推進の観点から、試合の途中経過を配信することを検討する。
- ⑯日本連盟主催大会のあり方について
- 開催地の負担を軽減する方法を検討する。

3. 地域ソフトテニス大会支援

(1) 地域等における競技会開催に、次のとおり補助を継続して行う。

- ① 9地区選手権大会
9地区×200,000円を助成する。
- ② 地区高校選抜大会
9地区×100,000円を助成する。
- ③ 9地区中学選手権大会
9地区×100,000円を助成する。
- ④ 全日本シニア東西対抗大会
400,000円を助成する。
- ⑤ 全日本学生同好会大会
200,000円を助成する。

4. 加盟団体が行うソフトテニスの競技力向上と普及振興支援

(1) 地域グループ育成のため、次の事業を実施する。

- ① 地域クラブ・ジュニアクラブ等の育成
地域クラブ、ジュニアクラブ等の育成の充実を図ることを目的として、各支部に対し会員登録料から下記の率により助成する。
(一般20%、大学20%、高校生10%、高専10%、中学生20%、小学生50%)
- ② 支部小学生大会への補助
47支部×@30,000円を助成する。
- ③ 支部中学生大会への補助
47支部×@30,000円を助成する。
- ④ ソフトテニス週間の実施
ア. 10月の体育の日(月)を中心とした週(金曜日から木曜日)をソフトテニス週間として定め、全国で一斉にソフトテニスを楽しみアピールする。
イ. 47支部×@100,000円を助成する。
※補助金見直しにより、減額または廃止を検討する。
ウ. ソフトテニス週間の日本連盟主催によるイベントの開催を検討する。
- ⑤ ソフトテニス愛好者増加対策
ア. 中学校部活動引退後の練習場所を確保し、引退後もプレーできる環境を提供する、また、レディースを含めた社会人を対象として支部が実施する愛好者増加対策事業を支援して推進する。計画実施した支部×@150,000円を助成する。
イ. 日本連盟で作成したDVD付き指導教本を活用して、愛好者増加に不可欠な指導者に指導法を提供し、愛好者の指導に貢献、協力してもらう。
ウ. ソフトテニスの映画・漫画を活用してソフトテニスをアピールし、愛好者の増加を図る。
エ. 愛好者増加対策事業を実施している事例の情報提供を行い、事業効果の促進を図る。
- ⑥ 指導者バンク(地域)の活用促進
積極的に指導者バンク(地域)を活用し、競技者育成プログラム(Step-1、2)の推進及び中学校・高校の指導者不足を解消する等、普及を担う指導者を確保・活用する。

⑦総合型地域スポーツクラブの研究

ソフトテニス総合型地域スポーツクラブに参画するための研究を進めるとともに、必要な情報提供を行う。

⑧傷害補償制度の徹底

ア. 制度の目的、趣旨を会員報・機関誌・ホームページ等を利用して分かり易く伝え制度活用の推進を図る。

イ. 発生事案を把握・分析し、制度の見直しを図る。

5. ソフトテニスの広報活動

(1)メディア対策

①メディアへの情報提供

イベントにかかる事前提供及び事後提供情報の統一化を図り、情報提供の範囲を広げた積極的な活動を展開する。

②メディア対応マニュアルの作成

メディアへの情報提供を中心とした対応策をとりまとめたマニュアルを作成し、広報活動に活用する。

③テレビ放映の充実・発展

全日本選手権大会の NHK テレビ放送の継続及び他局においてもソフトテニスを取り上げられるように情報提供を行う。

(2)ホームページの運営

①即時性の推進

大会を含む各種イベントの状況が関係者に早く伝わるようにホームページ改訂作業の迅速化を図る。

②動画配信の推進

日本連盟テレビ局及び各支部テレビ局の映像を通して積極的な動画配信を展開する。

③スタート画面の更新

ホームページのスタート画面を更新し、より親しみやすく活用しやすい画面に更新する。

(3)広報誌発行

①機関誌「ソフトテニス」の毎月発行

内容を検討し、充実を図るとともに購読者数の増加策を検討し、実施する。

②会員報の年2回の発行

③大会記録に関する提供方法の検討及び記録の提供(大会記録集)

年間の大会記録の情報提供方法を見直し、新たな方策を検討する。

(4)ソフトテニスの歌の活用推進

ソフトテニスの歌「ウィニングショット」及びソフトテニス応援歌「青空背負って」の活用を推進する。

①日本連盟主催大会での演奏

②加盟団体主催大会での演奏の推進

③メディアへの提供

(5)映画「案山子とラケット」の周知

①DVD 及び BD の紹介

②非劇場公開の推進

- ③国際普及の為の海外版の配布
- (6)加盟団体における広報活動の推進
 - ①広報担当者会議の開催
 - ②加盟団体における広報活動の情報交換の推進
- (7)ロゴマーク及びキャラクター(そふていー)の活用
 - ①ロゴマーク及びキャラクターを活かしたグッズの開発
 - ②ロゴマーク、キャラクターの積極的活用の推進
- (8)広報活動の更なる推進に向けて
 - ①長期的展望に立った広報活動の研究

6. ソフトテニスの表彰・顕彰

- (1)各種表彰を現行の表彰基準により次のとおり行う。
 - ①国内関係表彰
 - 以下の区分により国内表彰を行う。
 - ア.本部功労者
 - イ.支部功労者
 - ウ.優秀監督及び優秀選手
 - エ.優良団体
 - オ.ランキング選手
 - カ.国内大会入賞者
 - ②国際大会入賞
 - ③特別功労者または団体
 - ④その他、特に必要と認めたもの

7. ソフトテニスの技術等級・指導員資格認定

- (1)ソフトテニス愛好する者に自己の実力を確かめ、さらに技術を向上するための目標を与えることを目的として、技術等級制度規程に基づき、次の事業を実施する。
 - ①名誉指導員の認定
 - ②技術等級の認定(大会実績、検定会)
 - 認定基準等制度の周知、徹底を図り、多くの会員に取得させるよう努める。特に検定会による取得の促進を図る。
 - ③技術等級システムを活用して認定手続きと資格者管理の効率化を推進する。
 - ④技術等級制度自体の周知を図る。

8. ソフトテニスの審判員資格認定

- (1)公認審判員規程に基づき、次の事業を実施する。
 - ①マスターレフェリーの認定(50歳以上)
 - ②マスターアンパイヤーの認定(50歳以上)
 - ③1級審判員の認定(新規、更新)、及び検定会・研修会の実施
 - 審判員の資質向上を図るため1級審判員を検定会にて新規に認定し、6年の資格有効期間を更新するための研修会を各ブロックで開催し、継続的に養成する。
 - ④2級審判員の認定(新規、更新、ジュニア審判員からの移行)

- ⑤ジュニア審判員(中学3年生以下)の認定
 - ⑥2級審判員研修資料の提供
 - ⑦審判検定会・研修会での資料(パワーポイント)を活用し、講習内容の統一と審判員のさらなる資質向上を図る。
- (2) 審判員の普及促進と資質向上のため次の事業を推進する。
- ①審判員バンク創設及び派遣審判員の実施の検討
 - 審判員バンクを創設し、日本連盟主催大会に審判員を派遣することを検討する。
 - ②審判技術DVDの活用
 - 日本連盟で作成したDVDを審判技術向上のために積極的に活用する。
 - ③ジュニア審判員(中学3年生以下)の普及促進
 - ア. ジュニア審判マニュアルを活用し、ジュニア審判員普及の促進と審判技術の向上を図る。
 - イ. 「ソフトテニス ルール(きまり)とマッチ(試合)の進め方」(ジュニア審判マニュアル 低学年用)を活用し、小学生低学年向けにルールの理解の促進を図る。
 - ウ. ジュニア審判員検定会に使用する資料(パワーポイント)を作成し、講習内容の統一と資質及び審判技術向上を図る。
 - ④審判システムの活用
 - 審判システムの各種チェック機能の改善を図り、認定手続きと資格者管理の効率化を推進する。
 - ⑤全国審判員指導者研修会
 - 各都道府県における審判員のリーダー的人材育成を図るため、全国審判員指導者研修会の開催を検討する。
 - ⑥選手への研修
 - トッププレイヤーとして模範となるよう競技規則・審判規則の理解を深めるため、競技力向上事業の中で選手に研修を実施する。

9. ソフトテニス用具・用品、施設認定

- (1) 愛好者・競技者が安全で快適にプレーができるよう用具・用品、施設の公認に関し、次の事業を行う。
- ①新規公認・更新手続きの承認
 - ②ラケットの証紙、ネットの証布の発行
 - ③競技者にわかりやすいユニフォーム等着用基準の周知徹底

10. ソフトテニスの医科学研究事業

- (1) 普及発展及び競技力向上のため、学術的な貢献をする。
- ①研究結果を活用し、ソフトテニスプレイヤーの資質向上に努める。
 - 日本連盟主催事業や加盟団体主催事業への講師派遣について検討する。
 - ②トレーナーの資質向上と競技者の健康増進のための事業を推進する。
 - ア. 大会会場でトレーナーブースを設営し、参加者のコンディショニングに寄与する。
 - イ. トレーナーの発掘育成のため、各都道府県で活動するトレーナーについて調査をする。
 - ウ. 資質向上のため、各地で活動するトレーナーを対象とした講習会開催を検討する。

- ③アンチ・ドーピングに関する教育・啓発活動及び検査を実施する
- ア. 日本アンチ・ドーピング機構と連携し、国内大会でドーピング検査を実施する。
 - イ. ホームページや大会要項等に情報掲載をする。
 - ウ. 指導者や選手の家族へのアンチ・ドーピング教育について検討する。
 - エ. 日本アンチ・ドーピング機構と連携し、アウトリーチ活動(アンチ・ドーピングについての広報活動)を実施する。
 - オ. 国際連盟及びアジア連盟と連携してアンチ・ドーピング活動を推進する。
- ④医科学研究報告書を発行する。

II. ソフトテニスの競技力向上事業

1. ソフトテニスの競技力向上、医科学研究調査

(1) 競技力向上

世界No.1を目指した競技力向上に関し、次の事業を実施する。

①競技者育成プログラムの推進

ア. 一貫指導システムの構築を図り、競技者育成プログラムをStep1からStep5の過程を経て実施することにより、競技力を向上させる。

・Step-1、2 47都道府県で強化を実施

〈各支部に対して、400,000円を助成する。〉

・Step-3 8ブロックで強化合宿兼選考会を実施

〈8月下旬～9月上旬予定〉

・Step-4 宮崎市で強化合宿兼選考会及びジュニアジャパンカップを実施

・Step-5 全日本U-14、U-17、U-20として強化合宿を実施

イ. 指導教本(DVD付き)を活用して、競技力向上と普及指導を図る。

②日本代表チームの強化合宿

男子、女子とも年4～5回の強化合宿を実施する。

③ナショナルチームの強化合宿

男子、女子とも年2回の強化合宿を実施する。

④全日本U-14、U-17、U-20の強化合宿

男子、女子とも年2～3回の強化合宿を実施する。

⑤競技力向上のための国際大会派遣及び海外遠征

国際大会へ選手を派遣し、競技力の向上を図る。

ア. 第18回アジア競技大会(インドネシア)

イ. 第1回アジアジュニア選手権大会

ウ. 日・韓・中ジュニア交流競技大会(韓国)

エ. チャイナカップ国際ソフトテニス大会(中国)

オ. コリアカップソフトテニス大会(韓国)

カ. その他、上記以外のASTF及びISTFの関係する国際大会

⑥強化スタッフの各種大会視察

全日本選手権大会等の視察を実施する。

⑦競技力向上のための調査・研究

世界No.1を目指しての戦略をたてる。

⑧医科学サポートの活用

- ア. 競技力向上をより一層図るため、医科学委員会と各専門部会(医学部会、アンチ・ドーピング部会、トレーナー部会、スポーツ科学部会)よりデータ分析等のフィードバックを受ける。
- イ. 国際大会等に医科学委員及び各専門部会委員を帯同し、撮影及び各種データを分析する。
- ウ. 強化選手のメディカルチェック及び栄養調査を実施し、改善点などを指導する。
- エ. 強化選手へのアンチ・ドーピング教育を推進する。
- オ. 試合映像の管理等について検討する。

⑨競技者の資質向上のため、競技規則、審判規則、マナー等に関する研修会の実施を検討する。

2. ソフトテニスの指導者育成

(1)指導者養成

①指導者養成事業の推進

ソフトテニス競技の振興と競技力向上にあたる指導者の資質と指導力の向上およびスポーツ指導活動の促進と指導体制の確立を図る事を目的に以下を行う。

- ア. 公認スポーツ指導者制度の変更に伴い、専門科目の見直しを行う。
- イ. 指導員養成講習会及び上級指導員養成講習会(各都道府県連盟)を「公認スポーツ指導者養成マニュアル」を活用して積極的に実施し、公認スポーツ指導者の拡大を図り、地域の普及活動を充実させる。
- ウ. 公認スポーツ指導者有資格者以外のソフトテニス指導者向けの指導に関する啓発を行う。
- エ. 中・高等学校指導者育成のための方策を検討する。
- オ. 専門学校において専門学校生徒対象指導員養成講座を実施し、指導員の養成に努める。
- カ. 共通理念に基づくジュニア層指導をより推進するため、現行の「ソフトテニス指導マニュアルジュニア編」の改訂に向けた取り組みを始める。
- キ. ジュニア指導者の実態を把握するためのアンケートを実施し、ジュニアへの効果的な指導について検討する。
- ク. 上級指導員養成講習会(専門科目)の実施状況を把握し、一貫指導体制の確立と更なる競技力向上のための課題解決を協議する。
- ケ. 中学及び高校等でソフトテニス未経験の顧問や指導者を対象とした講習会開催を各支部への要請、指導内容の提供や講師派遣について検討する。

②全国小学生・中学生・高校生指導者の合同研修会

小学生、中学生、高校生のソフトテニス活動における課題の改善について検討する。

- ア. 競技者育成プログラム(一貫指導システム)による競技力の向上
- イ. スポーツ活動を通しての環境保全ならびに青少年の健全育成と暴力根絶の徹底
- ウ. 映画・漫画等の活用による愛好者の増加対策

③指導者バンク(日本連盟)の確立及び推進

- ア. 指導者バンクの積極的活用を推進する。
- イ. 競技者育成プログラム(Step-3、4、5)を推進するための公認指導者を確保する。

④指導者バンク(地域)の確立及び推進

ア. 地域における指導者バンクを確立し、積極的に活用し、競技者育成プログラム(Step-1、2)の推進及び中学校・高校の指導者不足を解消する等、普及を担う指導者を確保・活用する。

イ. ジュニア層指導者の資格取得を促進する(指導者資格、審判、技術等級)。

Ⅲ. ソフトテニスの国際振興事業

1. ソフトテニスの国際振興

(1) 国際普及活動の推進

①国際組織(ISTF、ASTF)内での指導的立場に基づく国際性の向上

②普及対象国への指導者、選手の派遣体制と制度化の検討

③海外の指導者及び選手の受け入れ体制と制度化の検討

③ジュニア、シニア等の交流促進

④国際競技規則の整合性の検討

⑤用具の提供、流通の促進

⑥普及指導用諸教材を活用して、普及活動を促進

ア. 紹介用プレゼンテーションDVD、紹介用パンフレットを活用する。

イ. 指導用DVDブックを活用し、ソフトテニスの指導法を広める。

ウ. 英語版審判技術マニュアル(DVD)の活用

エ. 指導教本のDVDとソフトテニスの漫画・映画を翻訳し、普及活動に活用する。

⑦国際普及親善活動に結びつく、支部活動に対する「国際親善大会補助費」の助成

ア. 国際親善・交流を目的とした大会開催または派遣等の活動に50,000円補助する。

イ. 国際都市親善・友好都市提携等の調査を行い、都市間交流によるソフトテニス普及を図る。

⑧地域別、年齢別の普及対策の検討

ア. 普及対象国を地域別に整理し普及対策を検討

イ. ワールドマスターズゲームズ参加者増を目指して海外へのアピールを積極的に行う。

⑨大学生の国際大会開催推進

(2) 国際指導体制、審判体制等の充実

①国際指導員制度(ASTF)の推進

②国際審判員制度(ASTF)の推進

国際審判員養成講習会を検討する。

③ISTF、ASTFのアンチ・ドーピング活動の推進

(3) 国際大会の開催促進

①第18回アジア競技大会(2018年インドネシア)の準備活動

②第1回アジアジュニア選手権大会開催(2018年)への準備活動

③第1回東アジアユース大会(2019年中華台北)開催への支援

④第9回アジア選手権大会開催(2020年)への準備活動

⑤関西ワールドマスターズゲームズ2021の運営準備

⑥世界ジュニア選手権大会開催への準備活動

⑦海外の国際大会への積極的参加

⑧その他国際大会への支援

(4) 国際組織 (ISTF、ASTF) への活動

- ①加盟各国の協力体制、財政基盤の確立、組織運営の検討
- ②ISTF の課題や運営面について、日本の考えや立場の意見統一
- ③国際大会参加に向けての積極的な活動及び支援
- ④国際ルール改訂に向けての検証と実施
- ⑤国際版ホームページの活用と推進

[各事業を推進するための組織と財政の強化、共通施策]

I. 組織と財政の強化を推進する。

1. 公益財団法人としての高い社会的信用を維持し、公益目的事業を行うために環境と教育に取り組む。

ソフトテニスを通じて環境保全を図っていくとともに、自己責任及びフェアプレイの精神を身につけ、マナーを重んじる教育を推進し、青少年の健全育成を図っていく。

「環境宣言『来た時よりも美しく』フェアプレイ宣言『ありがとう あなたの笑顔とそのマナー』」の横断幕の日本連盟主催大会会場及び各支部大会での掲示やプログラムへの掲載を行い、環境とマナーの向上を図る。

①大会や強化事業を実施する際にごみの分別等を行うなど、スポーツ活動を通して環境保全を図り、スポーツをする人たち、見る人たちも平等しく地球人として環境保全を推進するための物を大切にする生活習慣の徹底

ア. 大会会場での資源ごみの持ち帰り及び分別推進及びマイボトルを推進する。

イ. スポーツと環境保全シンポジウム等、会議への積極的参加。

②スポーツマンとしての倫理教育、青少年の健全育成の推進

スポーツ活動を通して青少年の自己責任やフェアプレイの精神などを身につけると共に、仲間との交流を通じて、コミュニケーション能力の育成や他人に対する思いやりなど、豊かな人間性を育てる青少年の健全育成に取り組むと共にソフトテニスが誰にでも誇れる格調高い競技を目指す。

ア. 試合終了後の握手の励行を更に徹底推進する。

イ. ワッペン着用、審判をする時の姿勢・態度等 審判員のマナーの向上を図る。

ウ. 「フェアプレイで日本を元気に」フェアプレイ宣言キャンペーン活動の継続推進。

エ. マナーキッズプロジェクト(NPO)と連動し、ショートテニスを通じて日本の伝統的な礼法を体験させ、<体・徳・知>バランスのよい子供を育てる。

オ. マナーBOOK を配布しPRしていく。

カ. マナーチェックシートを活用し、実態調査と指導を引き続き行っていく。

③暴力根絶の徹底

ア. 「公益財団法人日本体育協会及び加盟団体における倫理に関するガイドライン」に従い、「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」の精神に則り、暴力の根絶の徹底を図る。

イ. 暴力の根絶徹底のため、通報窓口と指導基本規程違反の処理機関として、各支部に設置した違反救済申立処理委員会、日本連盟に設置した違反救済審査委員会を通して相談を受け入れ、指導基本規程に従った対応をしていく。

2. 会員登録制度の推進を図る。

①会員登録制度の及び充実

ア. 制度の周知徹底を図り会員登録をさらに推進する。

イ. データ分析により課題を整理し対策を検討、会員数増を図る。

②会員登録手続きの効率化

ア. 会員登録システムの活用を向上し、事務効率化を図る。

イ. 会員登録システム担当者引継袋の利用を徹底し、登録事務引継の円滑化を図る。

ウ. 会員登録システムに連動し、審判、技術等級の認定管理を行う。

エ. 会員登録システムに連動した日本連盟主催大会申込システムを活用する。

オ. 支部大会申込システムの活用を促進する。

カ. 会員証及び会員報配布を各団体へ直接送付を継続し、支部関係者の事務負担の軽減を図る。

キ. 会員登録納付システムの活用による会費及び大会参加料等の早期かつ正確な納付による円滑な資金管理を推進する。

③会員報の発行

会員登録料の用途及び日本連盟の情報を会員に周知する。

④登録状況の把握と改善

ア. 支部別及び階層別の団体数と会員数等を把握する。

イ. 会員登録有料化からの階層別会員登録推移を検証し、愛好者増加対策等の検討に活用する。

ウ. 競技人口を調査し、カテゴリーごとの会員数増加を図るべく対策を検討する。

3. 長期基本計画2017(平成29年度～33年度)の計画を着実に推進する。

4. 東京オリンピックを見据え、ソフトテニスの国際普及・振興を図るため、日本オリンピック委員会や東京都体育協会からの情報収集を進める。2020年東京オリンピックを良い機会としてとらえ、関わりを持てるような企画を検討する。

平成30年度 大会日程並びに開催地一覧

平成29年12月20日現在

	大会名	開催地	日 程	平成31年度
主 催 大 会	第18回アジア競技大会日本代表選手予選会	広島県広島市	4月14日(土)・4月15日(日)	
	第25回全日本シングルス選手権大会	青森県青森市	5月19日(土)・5月20日(日)	(九州)
	男子第63回・女子第62回 全日本実業団選手権大会	茨城県北茨城市 ・日立市	8月3日(金)～8月5日(日)	鹿児島県鹿児島市
	第35回全日本小学生選手権大会	愛媛県今治市	7月26日(木)～7月29日(日)	(関東)
	第46回全日本社会人選手権大会	静岡県静岡市他	9月8日(土)・9月9日(日)	(北海道・東北)
	JOCジュニアオリンピックカップ大会 第25回全日本ジュニア選手権大会	広島県広島市	9月15日(土)・9月16日(日)	広島県広島市
	第22回全日本シニア選手権大会	佐賀県佐賀市他	9月21日(金)～9月23日(日)	京都府福知山市
	第73回天皇賜杯・皇后賜杯 全日本選手権大会	熊本県熊本市	10月19日(金)～10月21日(日)	岩手県北上市
	第32回日本実業団リーグ	京都府福知山市	10月26日(金)～10月28日(日)	京都府福知山市
	第25回全日本クラブ選手権大会	千葉県白子町	10月27日(土)・10月28日(日)	千葉県白子町
	第36回日本リーグ	愛知県豊田市	12月14日(金)～12月16日(日)	愛知県豊田市
	第64回全日本インドア選手権大会 日本リーグ入替戦	大阪府大阪市 愛知県名古屋	31年 2月3日(日) 31年 2月9日(土)・2月10日(日)	大阪府大阪市 愛知県名古屋
	ス ポ ー ツ 事 業	第13回ジュニアジャパンカップ 「競技者育成プログラム(Step-4)」	宮崎県宮崎市	11月16日(金)～11月19日(月)
第30回都道府県対抗全日本中学生大会		三重県伊勢市	31年 3月26日(火)～3月28日(木)	三重県伊勢市
第18回全国小学生大会		千葉県白子町	31年 3月29日(金)～3月31日(日)	千葉県白子町
共 催 大 会	第47回ハイスクールジャパンカップ	北海道札幌市	6月20日(水)～6月24日(日)	北海道札幌市
	西日本シニア選手権大会	宮崎県宮崎市	6月23日(土)・6月24日(日)	奈良県
	第73回東日本選手権大会 (一般・35・45)	茨城県神栖市 ・北茨城市	7月14日(土)・7月15日(日)	(北信越)
	第73回東日本選手権大会(シニア)	栃木県宇都宮市 ・栃木市	7月21日(土)・7月22日(日)	(北信越)
	第72回西日本選手権大会	大分県大分市	7月21日(土)・7月22日(日)	大阪府
	全日本高校選手権大会(男子)	三重県鈴鹿市	8月3日(金)～8月6日(月)	宮崎県宮崎市
	全日本高校選手権大会(女子)	三重県鈴鹿市	7月30日(月)～8月2日(木)	宮崎県宮崎市
	第45回全日本レディース大会(個人戦)	和歌山県和歌山市他	8月1日(水)～8月3日(金)	青森県青森市他
	全日本学生選手権大会	岡山県	8月6日(月)～8月11日(土)	
	第49回全国中学校大会	広島県尾道市	8月21日(火)～8月23日(木)	京都府
	第40回全日本レディース決勝大会(団体戦)	宮城県仙台市	8月17日(金)～8月19日(日)	愛知県一宮市
国 際	日本スポーツマスターズ2018	北海道江別市	9月15日(土)～9月16日(日)	岐阜県
	第73回国民体育大会	福井県越前市 ・福井市	10月5日(金)～10月8日(月)	茨城県北茨城市
	第44回全日本高校選抜大会	愛知県名古屋	31年 3月28日(木)～3月30日(土)	愛知県豊田市
	第26回日・韓・中ジュニア交流競技大会	韓国	8月23日(木)～8月29日(水)	中国
そ の 他	第18回アジア競技大会	インドネシア	8月27日(月)～9月1日(土)	
	第31回ねんりんピック2018	富山県高岡市	11月3日(土)～11月6日(火)	和歌山県